消化器外科専門医筆記試験問題（第 18 回より抜粋）

1 64 歳の男性．3 年前に胃体部の 3 型癌（低分化腺癌）で胃全摘を受けた．少量の腹水貯留を認める腹膜再発で来院．経口摂取不能である．
適応と考えられる癌化学療法薬はどれか．

a　S-1
b　塩酸イリノテカン
c　塩酸ゲムシタビン
d　オキザリプラチン
e　パクリタキセル

2 内視鏡診療について正しいのはどれか．

a　消化管穿孔の患者に内視鏡検査は禁忌である．
b　ペースメーカー装着患者には内視鏡検査は禁忌である．
c　内視鏡施行の際の鎮静剤静脈投与時には，経皮的酸素飽和度モニターは必須である．
d　吐血に伴う出血性ショック患者では，直ちに上部消化管内視鏡検査を行う．
e　使用後の内視鏡機器は毎回滅菌する．

3 ストーマサイトマーキングの原則について**誤っている**のはどれか．

a　臍とほぼ同じ高さ
b　腹部脂肪層の頂点
c　皮膚のくぼみ，しわ，瘢痕，腸骨棘，肋骨弓を避けた位置
d　本人が観察することが可能な位置
e　腹直筋を貫く位置

4 50 歳の男性．6 か月前より排便時出血と肛門部の腫瘤脱出があったが，腫瘤は容易に還納されていた．3 日前から肛門部の違和感と疼痛が出現，昨日より疼痛が増強したため来院した．
血液所見：赤血球 410 万，Hb 12.3g/*dl*，白血球 9,700. 体温 36.5℃．肛門部の所見（**写真 1**）を示す．
診断はどれか．

a　肛門周囲膿瘍
b　裂肛
c　内痔核嵌頓
d　直腸脱
e　肛門管癌

5 外科代謝栄養に関して正しいのはどれか．

a　Harris-Benedict の計算式は性別，身長，体重，年齢の要素が加味されている．
b　クリニカルパスの導入により術後の経口摂取開始時期は遅くなった．
c　長期的な栄養療法の評価に rapid turnover protein が有用である．
d　ICU 患者において血糖値を適正に保っても敗血症の発生頻度は低下しない．
e　短腸症候群では胃液分泌が低下する．

6 食道癌について**誤っている**のはどれか．

a　60 歳代の男性に多い．
b　Asian cancer belt といわれる好発地域がある．
c　欧米では腺癌が急増している．
d　本邦では胸部下部食道に最も生じやすい．
e　飲酒と関連する遺伝子多型が判明している．

7 正しい組合せはどれか．

a　Murphy sign ───急性閉塞性化膿性胆管炎
b　Courvoisier 徴候 ─上部胆管癌
c　Mirizzi 症候群 ──肝門部胆管癌
d　Lemmel 症候群──十二指腸傍乳頭憩室
e　Charcot の三徴──急性胆嚢炎

8 **誤っている**組合せはどれか．

a　Crohn 病──────小腸狭窄
b　虚血性大腸炎───下血
c　潰瘍性大腸炎─── 5-アミノサリチル酸製剤
d　家族性大腸腺腫症─常染色体性劣性遺伝
e　遺伝性非ポリポーシス性大腸癌
　──────────アムステルダム診断基準Ⅱ

9 腫瘍マーカーの偽陽性について**誤っている**組合せはどれか．

a　CA19-9 ─────閉塞性黄疸
b　CEA ──────ルイス抗原陰性
c　PIVKA-Ⅱ ────ワーファリン内服
d　AFP ──────妊娠
e　DUPAN-2 ────慢性膵炎

10　正しい組合せはどれか.

a　胃体下部大彎，10cm 大の GIST
　　――――――――幽門側胃切除術＋D2 郭清

b　胃角部，2cm 大，深達度 M，
　　por1 のⅡc ―――内視鏡的粘膜切除術

c　EGJ 下 3cm 小彎，6cm 大，type3
　　――――――――左開胸開腹胃全摘術

d　胃体上部後壁，3cm 大，深達度 SM，
　　sig のⅡc――――噴門側胃切除＋脾摘術

e　胃体中部前壁，3cm 大，深達度 SM，
　　tub2 のⅡc ―――幽門側胃切除術

11　腹部外傷について正しいのはどれか.

(1) 腹腔内出血の検索には focused assessment with sonography for trauma（FAST）が有効である.
(2) 腹部 CT で sentinel clot sign は出血部位同定の指標となる.
(3) 腹部単純エックス線で dog's ear sign は後腹膜出血を疑う.
(4) Damage control surgery では損傷臓器の積極的な修復を行う.
(5) 外傷死の三徴とは低血圧，低体温および代謝性アシドーシスのことである.

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

12　門脈枝塞栓術について**誤っている**のはどれか.

(1) 腹腔内出血は門脈枝塞栓術の合併症の一つである.
(2) 経回腸静脈的に施行されることがある.
(3) 右門脈塞栓術後，左葉では肝再生が引き起こされる.
(4) 閉塞性黄疸症例では禁忌である.
(5) 少量肝切除症例がよい適応である.

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

13　胃癌の化学療法に関して**誤っている**のはどれか.

(1) パクリタキセル投与に際して，ステロイドの前投与は必須である.
(2) 奏効率と 5 年生存率はよく相関する.
(3) S-1 と 5'DFUR の併用療法は有用である.
(4) CDDP 投与時は，十分量の補液を行って利尿を得るべきである.
(5) 消化器系の副作用は CDDP に比較してパクリタキセルで少ない傾向にある.

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

14　食道表在癌について正しいのはどれか.

(1) 0-Ⅲ型は深達度 T1a であることが多い.
(2) SM3 癌のリンパ節転移率は 10〜20% である.
(3) 超音波内視鏡検査によるリンパ節転移診断には 7.5MHz 位のプローブが適している.
(4) 胸部中部食道癌のリンパ節転移の好発部位に反回神経リンパ節がある.
(5) SM1 癌はリンパ節転移頻度が低く内視鏡的粘膜切除術の絶対適応である.

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

15　動脈分岐の様式で通常みられる組合せはどれか.

(1) 右胃大網動脈―――胃十二指腸動脈
(2) 右胃動脈―――――上膵十二指腸動脈
(3) 後胃動脈―――――総肝動脈
(4) 左胃大網動脈―――左下横隔動脈
(5) 左胃動脈―――――腹腔動脈

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

16　結腸軸捻転症について正しいのはどれか.

(1) 痩せ型の高齢者に好発する.
(2) 通過障害が主で血行障害は来さない.
(3) 30% は S 状結腸に発生する.
(4) 整復後の再発率は極めて低い.
(5) 穿孔例は手術適応である.

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

17　膵頭部癌について正しいのはどれか.

(1) 大動脈周囲リンパ節転移は膵癌取扱い規約では遠隔転移（M1）である.
(2) 総肝動脈あるいは上腸間膜動脈に浸潤を認めた場合，根治手術の適応ではない.
(3) 後腹膜に存在するため下大静脈に浸潤しやすい.
(4) 切除例の 5 年生存率は約 40% である.

(5) 根治術後肝転移は積極的切除が有用である．

a (1), (2)　b (1), (5)　c (2), (3)
d (3), (4)　e (4), (5)

18 わが国における脳死移植について正しいのはどれか．

(1) 臓器を提供できる者には年齢制限がある．
(2) 臓器提供に対して脳死者の家族は反対できない．
(3) 眼球と腎臓は脳死移植に限定される．
(4) 肝性脳症は脳死判定の除外項目となる．
(5) 臓器を摘出できる施設は限定されている．

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5)　d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

19 48 歳の女性．嚥下障害を主訴として来院．手術的既往はない．内視鏡検査で上切歯列より 18cm に狭窄所見がみられた（**写真 2**）．
関連があるのはどれか．

(1) 貧血
(2) 口内炎
(3) 匙状舌
(4) 糖尿病
(5) 胃潰瘍

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5)　d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

20 **誤っている**のはどれか．

(1) 感染性膵壊死が疑われる場合は穿刺液の細菌検査を行う．
(2) 重症急性膵炎の場合，輸液は成人で 1 日 2,000 *ml* 以下とする．
(3) 胆石性膵炎に対しては総胆管切開切石術が第一選択となる．
(4) 膵仮性嚢胞に対する手術は嚢胞切除術が一般的である．
(5) 重症急性膵炎の致死率は 20〜30% である．

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5)　d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

21 正しいのはどれか．

(1) AFP 産生胃癌には肝転移が多い．
(2) 胃癌の肝転移は他の非治癒因子を伴うことが多い．
(3) 限局した大腸癌の肝転移に対する第一選択の治療は肝切除である．
(4) 切除不能な大腸癌の肝転移は肝移植の適応になりうる．
(5) 膵内分泌腫瘍の肝転移には肝動脈塞栓術は効果が低い．

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5)　d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

22 69 歳の男性．排便時出血にて来院．精査にて下部直腸癌と診断された．身長 160cm，体重 80kg．下肢深部静脈のカラードップラー超音波検査は正常であった．
周術期に必要な処置はどれか．

(1) ヘパリン投与
(2) ウロキナーゼ投与
(3) 下大静脈フィルター挿入
(4) 下腿の弾性包帯装着
(5) 下腿のコンプレッションマッサージ

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5)　d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

23 胃切除後障害について正しいのはどれか．

(1) 胃全摘では，術後 1 年以内に悪性貧血が出現する．
(2) 鉄欠乏性貧血は術後 5 年以後に出現しやすい．
(3) 慢性輸入脚症候群では胆汁性嘔吐が特徴である．
(4) 急性輸入脚症候群では急性膵炎がみられる．
(5) 後期ダンピング症候群とは低血糖によるものである．

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5)　d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

24 75 歳の男性．呼吸困難を主訴として来院した．入院時の上部消化管造影像（**写真 3a**）と胸部 CT 像（**写真 3b**）を示す．

病態，治療に関して正しいのはどれか.
(1) 特発性食道破裂が疑われる.
(2) 縦隔炎はみられない.
(3) 食道肺瘻が疑われる.
(4) 食道腫瘍である.
(5) 開胸食道切除術の適応である.
a (1), (2)　b (1), (5)　c (2), (3)
d (3), (4)　e (4), (5)

25 47 歳の男性．半年前より時々腹痛を認めていたが，すぐに軽快していた．夕食後に間歇性の腹痛が出現し来院した．昨日より排便はなく，排ガスも不良であった．腹部単純エックス線像（**写真 4a**）および CT 像（**写真 4b**）を示す.
考えられる疾患はどれか.
a 上行結腸炎
b 虚血性腸疾患
c 絞扼性イレウス
d 腸重積
e S 状結腸軸捻転

26 56 歳の男性．生来健康であったが，3 か月前より食欲不振と心窩部不快感が出現したため近医受診．上部消化管内視鏡検査で胃癌と診断され紹介となった．胃内視鏡像（**写真 5a**）と腹部造影 CT 像（**写真 5b**，**5c**，**5d**）を示す.
正しいのはどれか.
(1) 膵臓への浸潤が疑われる.
(2) No. 16 リンパ節転移が疑われる.
(3) 癌性潰瘍からの出血が危惧される.
(4) 十二指腸への浸潤が疑われる.
(5) 手術により根治度 A の可能性もある.
a (1), (2)　b (1), (5)　c (2), (3)
d (3), (4)　e (4), (5)

27 48 歳の女性．乗用車を運転中，トラックと衝突して受傷し，救急搬送された．シートベルトをしていなかった.
来院時の血圧 67/50mmHg. 意識は清明. 腹部は軽度膨満し，上腹部を中心に筋性防御を認めた．補液 2,000*ml* を施行し輸血を開始したところ，血圧は 120mmHg 台まで上昇した．しかし CT 中に再度血圧が 60mmHg 台に低下した. 頭部 CT では異常を認めなかった.
来院時血液検査：血清アルブミン 3.0g/*dl*，血清総ビリルビン 1.0mg/*dl*, AST 12 単位, ALT 88 単位, AMY 33 単位，PT 79.2%，白血球 12,000，Hb 13.4 g/*dl*，血小板 27 万.
血圧再低下時の血液検査：白血球 5,600, Hb 5.8g/*dl*，血小板 8.3 万，PT 40.7%.
腹部造影 CT 像（**写真 6a**，**6b**，**6c**，**6d**）を示す.
誤っているのはどれか.
a 深在性肝損傷を認める.
b 肝動脈塞栓術を行い，開腹術を回避する.
c 横隔膜下血腫を認める.
d 開腹時 Pringle 法で循環が安定しない場合には下大静脈損傷を疑う.
e 止血が困難で循環が維持できない場合，ガーゼ充填術を選択する.

28 58 歳の男性. 胃内視鏡検査で体下部小彎の胃癌を指摘され，内視鏡治療（endoscopic submucosal dissection，ESD）を受けた． 内視鏡像（**写真 7a**），病理組織像（**写真 7b**）を示す.
治療方針として妥当なのはどれか.
a 経過観察
b 再 ESD
c 開腹局所切除
d 幽門側胃切除
e 胃全摘

29 84 歳の男性． 6 か月前より排便時出血があった．近医で下部消化管内視鏡検査をうけたところ，S 状結腸に隆起病変を認め，生検の病理検査にて腺癌の診断となった．ガストログラフィンによる注腸造影像（**写真 8a**）と腹部エックス線 CT 像（**写真 8b**，**8c**）を示す.
腹痛時血圧 140/90mmHg，呼吸数 22/分，脈拍 120/分，整.
検査所見：赤血球 475 万，Hb 14.3g/*dl*，白血球 8,400, 血小板 28.1 万，CRP 0.04mg/*dl*
処置として正しいのはどれか.
(1) 腸蠕動促進薬投与
(2) イレウス管挿入
(3) 経肛門的腸管減圧チューブ挿入
(4) Hartmann 手術
(5) S 状結腸切除術
a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)

c　(1), (4), (5)　　d　(2), (3), (4)
e　(3), (4), (5)

30　66 歳の男性. 倦怠感を訴えて来院した. 20 年前に胆石症で胆嚢摘出術を受けている. 腹部身体所見に異常はない. 血液検査で胆道系酵素の上昇を指摘され, CT で異常を発見された.

入院時検査所見：赤血球 440 万, Hb 15.0g/*dl*, 白血球 7,300, 血清総ビリルビン 0.7mg/*dl*, AST 39 単位, ALT 35 単位, アルカリホスファターゼ 19.4 単位（正常 10 以下), γ-GTP 187 単位（正常 40 以下), 総蛋白 8.2g/*dl*, CEA 3.1ng/*ml*, CA19-9 21 単位. ERCP 像（**写真 9a**）と ERCP 後の腹部造影 CT 像（**写真 9b**）を示す.

考えられる疾患はどれか.

(1) 肝嚢胞腺癌
(2) 乳頭型胆管癌
(3) 肝内結石症
(4) 傍胆管嚢胞
(5) 胆管内出血

a　(1), (2)　　b　(1), (5)　　c　(2), (3)
d　(3), (4)　　e　(4), (5)

写真 1

写真 2

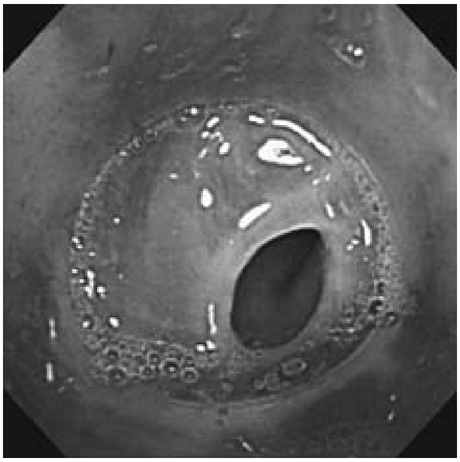

写真 3a

写真 3b

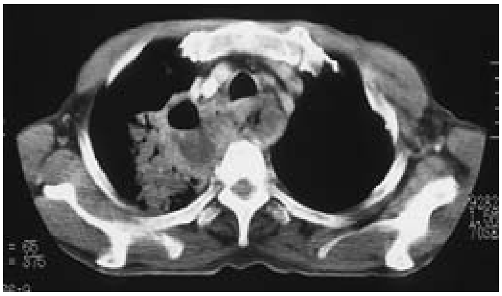

写真 4a

写真 4b

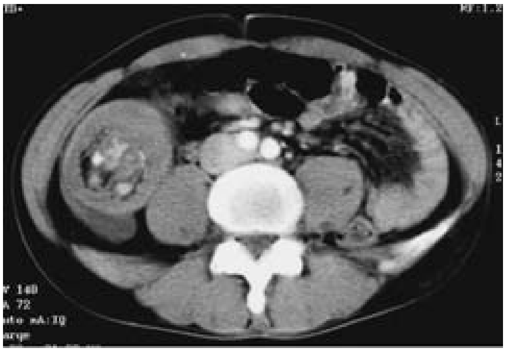

写真 5a

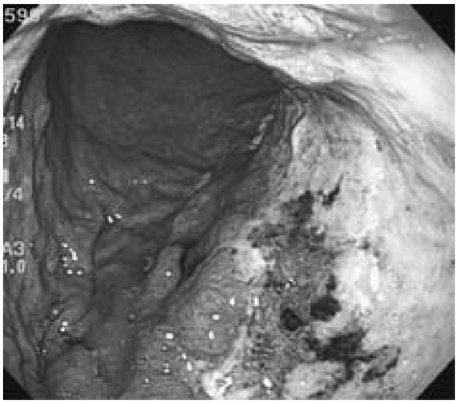

写真 5b

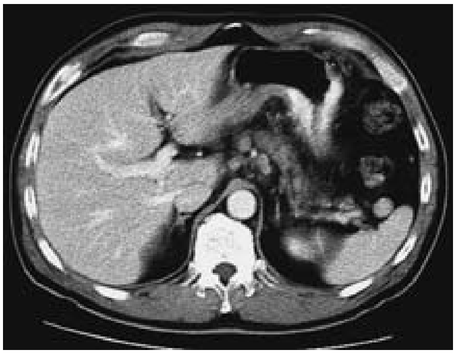

写真 5c

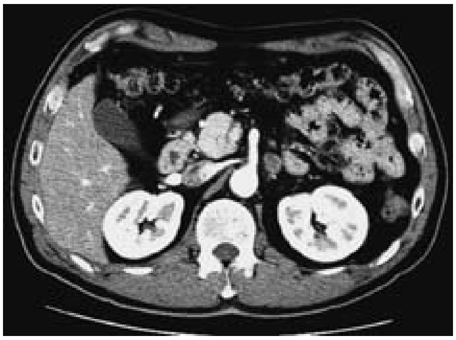

写真 5d

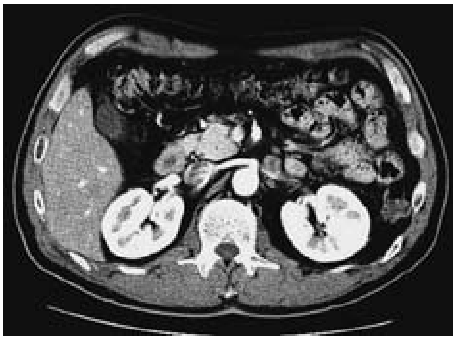

写真 6a

写真 6b

写真 6c

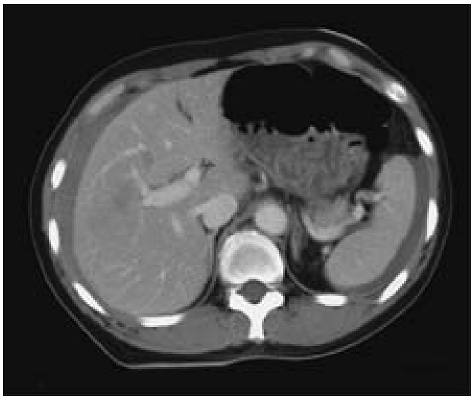

写真 6d

写真 7a

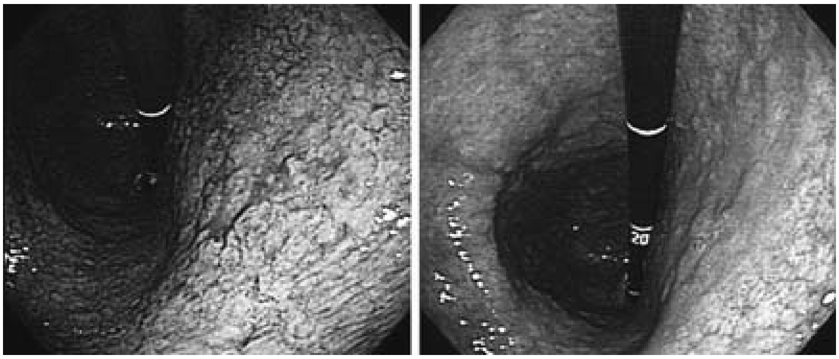

写真 7b

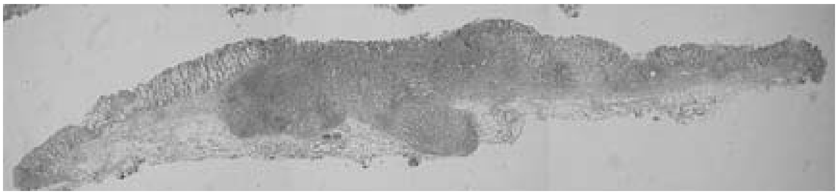

写真 8a

写真 8b

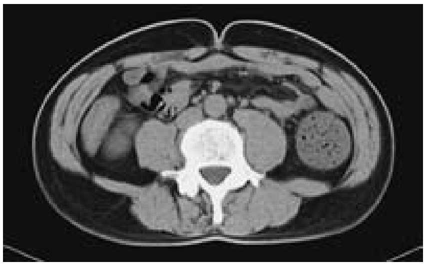

写真 8c

写真 9a
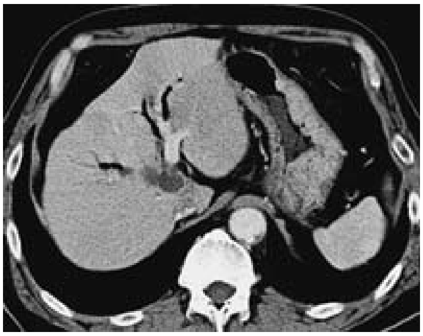
写真 9b